

取組を進めるポイント

こどもや若者には なにが大事？



こども・若者の社会参画や 意見反映に向けて

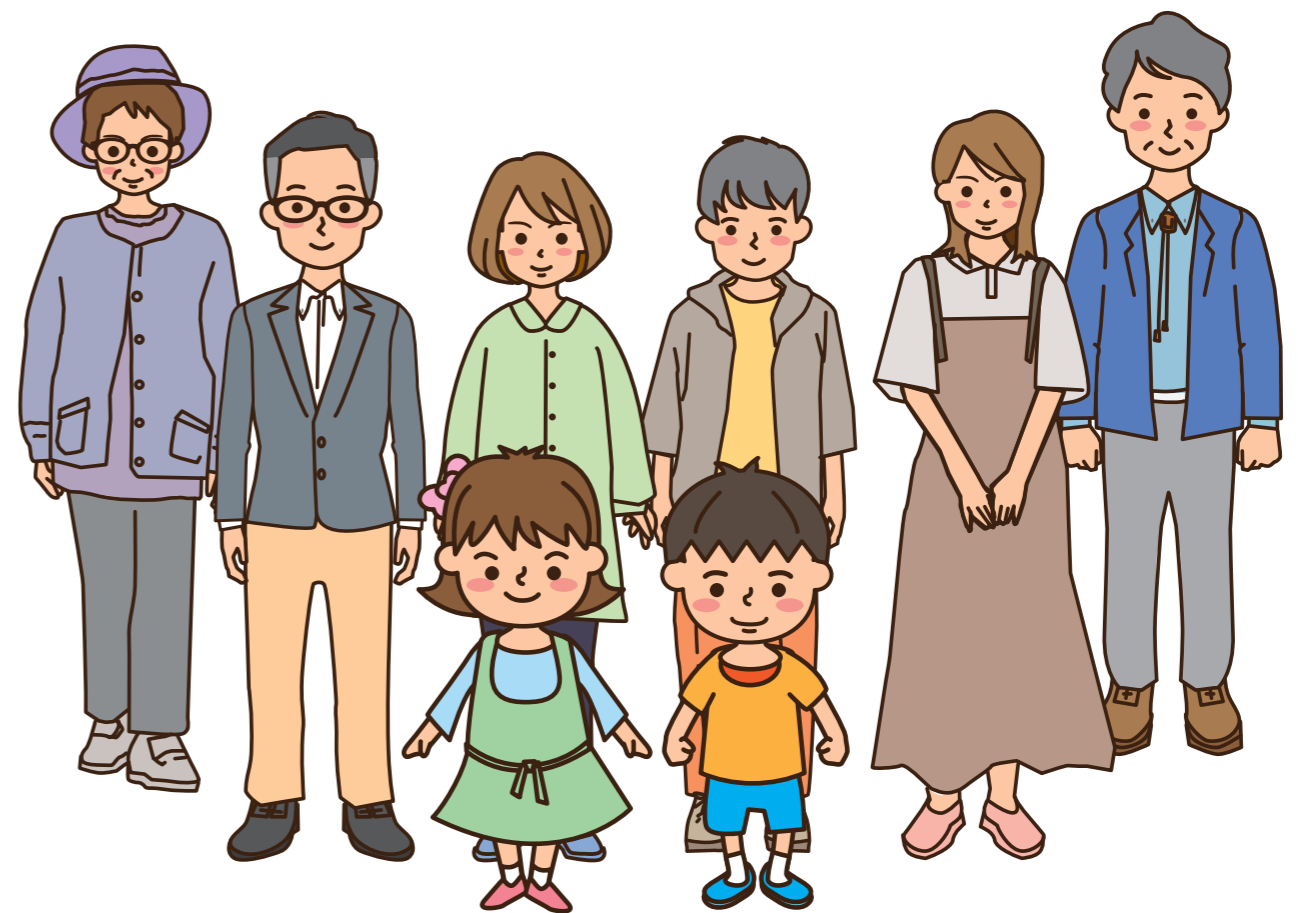
こども・若者の社会参画を推進するために、国策決定の過程にこどもが参画する機会を増やしたり、こどもの社会参画と意見反映を支える人材の育成等、様々なことが大切です。これらの共通の基盤として、政策の効果分析と改善や、こどもと子育てに関する人材の育成、子育ての事務負担の軽減、そしてこどもや育児に対する社会の意識改革などの施策に取り組めます。



内閣総理大臣のリーダーシップの下、数値目標の設定を行い、自治体やユニセフなどの国際機関等と連携を取りながら、こども大綱を推進していきます。

こども大綱が できました！

こどもまんなか社会を目指して



こどもまんなか
こども家庭庁

ウサノビとこの冊子について



僕はウサノビ。
こどもの幸せな未来のために作られた
「こども大綱」を見ていこう！

4つの内容が書かれているよ！

- ① こども大綱ができた背景
- ② こども施策の基本的な方針
- ③ こども施策で大切なこと
- ④ こども施策を進めるために必要なこと

こども大綱が作られた目的



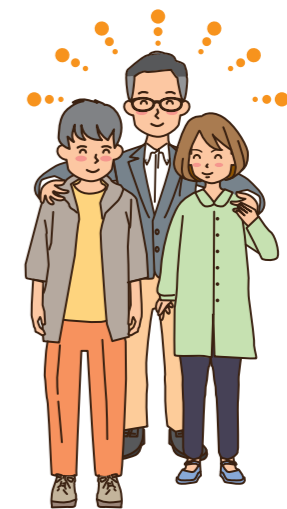
こどもや結婚・子育ての当事者である若者が
幸せに生きられる社会を目指します

こども大綱は「こども基本法」に基づく
大綱で、幅広いこども政策に関する基
本的な方針を定めることを目的に策定
されました。



この大綱を基に少子化や育児の問題やこ
ども・若者の育成支援、こどもの貧困対策
といった課題を一つに束ね、こどもや若
者、結婚・子育ての当事者を真ん中に据え
た取組を行っていきます。

こども大綱では全てのこども・若者が
心身の状況や置かれた環境に関係なく
健やかに成長し、将来にわたり幸せに
生活ができる「こどもまんなか社会」の
実現を目指します。



はじめに

こども大綱の前提となる 6つの方針



こども施策の基本的な方針

- ① こどもを権利の主体とし、多様な個性を尊重し最善の利益を図ります
- ② こどもや子育て当事者の視点を尊重し、対話しながら進めます
- ③ ライフステージに応じて切れ目なく、十分に支援します
- ④ 成育環境を整え全てのこどもが幸せに成長できるようにします
- ⑤ 若い世代の生活が安定し、子育てに希望を持てる取組をします
- ⑥ 関係省庁や公共団体、民間団体等との連携を重視します



こども施策の基本方針

こども施策に関する 重要事項



ライフステージを通して
重要なこと

「こどもまんなか社会」を実現するためには、全てのライフステージで共通する課題や、特定のライフステージに応じた課題や、子育て当事者の支援を念頭においた施策が重要です。



こどもが権利の主体であることを周知し、多様な体験と活躍の機会をつくり、連続的に保健や医療を提供することに加え、こどもの貧困の解消や児童虐待の防止、自殺や犯罪などからこどもを守る取組を継続的に行います。



こどもや若者には なにが大事？



誕生前から青年期にかけて 重要なこと

人生のスタートを切るこどもの誕生前から幼児期までは、保健と医療を受け続けられることや、安心・安全でこどもが成長でき、遊びも充実している環境を作ります。



こどもが心身共に大きく成長する学童期から思春期には、質の高い公教育や居場所づくり、小児医療体制・こころのケアの充実に加え、いじめや不適切な指導等も防止します。

社会に出ていくための準備期間である青年期には、高等教育の充実や就労・結婚の支援に加え、若者や家族が抱える悩みへの相談体制も整えます。

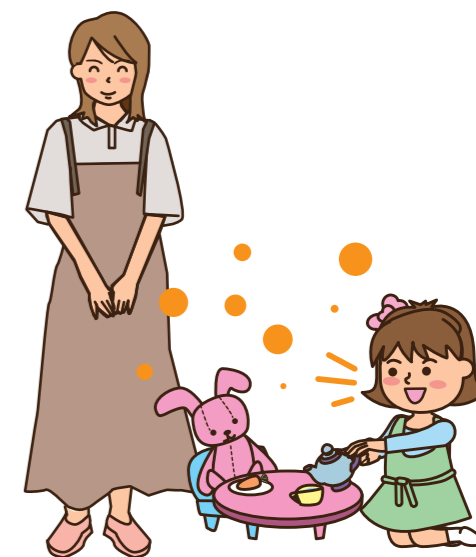


こどもや若者には なにが大事？



子育て当事者の支援において 重要なこと

現代は核家族化の進展や地域のつながりの希薄化などにより、周囲の人から子育てに関する助言や支援を得ることが難しい時代です。一方で、子育て当事者が経済的な不安や孤立感、仕事との両立に悩むことなく、健康で自己肯定感とゆとりをもってこどもに向き合えることが、こどもの健やかな成長には欠かせません。



これを踏まえ、子育てや教育に関する経済的な負担を減らし、地域や家庭での子育てと教育の支援を行います。また、共働き・共育てや男性の主体的な家事育児参加の促進やひとり親家庭への支援も進めます。